

門脇廣文著

〔東洋学叢書〕

文心雕龍の研究

刊行
創
文
社

門脇 廣文 (かどわき・ひろふみ)

1950年、兵庫縣生まれ。慶應義塾大學文學部卒業。同大學院修士課程修了。東北大學大學院博士課程後期課程單位取得退學。東北大學文學部助手を経て、現在、大東文化大學文學部教授。博士(文學)。

〔主要著書〕『二十四詩品』(明德出版社)。『中國人民大學出版社《中國美學範疇辭典》譯注』(共譯、大東文化大學人文科學研究所)

〔文心雕龍の研究〕

二〇〇五年三月一日 第一刷印刷
二〇〇五年三月三日 第一刷発行

著 者 門 脇 廣 文

発 行 者 久 保 井 浩 俊

印 刷 者 藤 原 良 成

発 行 所 鐵 創 文 社

〒101-8002

東京都千代田区麹町二一六〇一七

電話 〇三―二三六三―七〇一

振替 〇〇二〇〇九二四七二

<http://www.sobunsha.co.jp>

著者との申し合せにより検印省略

藤原印刷・鈴木製本

ISBN4-423-19263-2

Printed in Japan

孔子と論語	木村英一品	切
清代史の研究	安部健夫	A5 七七〇〇円 本体七五〇〇円
上古より漢代に至る 性命觀の展開	森三樹三郎	品
元代史の研究	安部健夫	品
明代思想研究	荒木見悟	A5 四〇〇〇円 本体七五〇〇円
中国戯曲演劇研究	岩城秀夫	A5 一七四〇円 本体一万円
古代中国思想の研究	渡辺卓	A5 一八八〇円 本体一万三千円
唐代社会文化史研究	那波利貞	品
樂府の歴史的研究	増田清秀	A5 六〇〇〇円 本体六五〇〇円
中国古代王朝の形成	伊藤道治	品
		切

春秋公羊伝の研究	日原利国	A5 本体七〇〇〇円
宋词研究・唐五代北宋篇	村上哲見	A5 本体七〇〇〇円
王維研究	入谷仙介	A5 本体一七三〇円
中国古代中世史研究	宇都宮清吉	A5 本体一六八〇円
中国語学研究	小川環樹	A5 本体七八〇〇円
杜甫の研究	黒川洋一	A5 本体六五〇〇円
中国近世道教の形成	秋月観暎	A5 本体七三三〇円
中国中世文学評論史	林田愼之助	A5 本体一五七〇円
老子伝説の研究	楠山春樹	A5 本体八五〇〇円
明末宗教思想研究	荒木見悟	A5 本体八五〇〇円

中国語音韻史の研究	尾崎雄二郎	A 5 三八〇頁 本体五五〇〇円
中国哲学の探究	木村英一	A 5 六一〇頁 本体八五〇〇円
論衡の研究	佐藤匡玄	品 切
中国人の自然観と美意識	笠原伸二	品 切
経書の成立	平岡武夫	A 5 三六〇頁 本体五〇〇〇円
古代中国の神々	御手洗勝	A 5 八二〇頁 本体一万四千円
秦漢思想史の研究	町田三郎	A 5 四四〇頁 本体八五〇〇円
中国史上の民族移動期	田村実造	A 5 三五〇頁 本体五〇〇〇円
中国古典劇の研究	岩城秀夫	A 5 四〇〇頁 本体五〇〇〇円
東洋思想研究	本田 濟	A 5 一八三〇頁 本体一万二千円

中国の祭祀と文学	中国詩文論藪	敦煌資料による中国語史の研究	四書学史の研究	中国古代思想史における自然認識
品切	清水茂	高田時雄	佐野公治	内山俊彦
A5 五二〇〇円	A5 八〇〇〇円	A5 四七〇〇円	A5 四七〇〇円	A5 四三〇〇円
漢代官吏登用制度の研究	中国の祭祀と文学	六朝道教史研究	初期の道教	東洋における自然の思想
福井重雅	中鉢雅量	小林正美	大淵忍爾	鈴木喜一
A5 五二〇〇円	A5 八〇〇〇円	A5 六四〇〇円	A5 六五〇〇円	A5 二五〇〇円
黄老道の成立と展開				浅野裕一
				A5 七三〇〇円

柳宗元研究	中国古代の「謠」と「予言」	六朝唐詩論考	六朝道教思想の研究	讀詞叢考	章学誠の知識論 考証学批判	睡虎地秦簡よりみた秦代の国家と社会	道教とその經典	六朝仏教思想の研究	『西遊記』形成史の研究
松本肇	串田久治	高木正一	神塚淑子	中田勇次郎	山口久和	工藤元男	大淵忍爾	小林正美	磯部彰
A5 本体九〇〇〇頁	A5 本体六五四〇頁	A5 本体一五九〇頁	A5 本体九八〇〇頁	A5 本体一万七六〇頁	A5 本体八〇〇〇頁	A5 本体九八〇〇頁	A5 本体一万二千〇頁	A5 本体七〇〇〇頁	A5 本体九〇〇〇頁

阮籍・嵇康の文学	大上正美	A5 本体七八〇〇円
唐代の思想と文化	西脇常記	A5 本体七五〇〇円
明清戯曲演劇史論序説	根ヶ山徹	A5 本体九〇〇〇円
朱熹門人集団形成の研究	市來津由彦	A5 本体九〇〇〇円
唐宋文学論考	寛文生	A5 本体九〇〇〇円
建安詩人とその伝統	伊藤正文	A5 本体一六三〇円
道学の形成	土田健次郎	A5 本体一五九〇円
中国古代礼法思想の研究	石川英昭	A5 本体五三〇〇円
朱子学の研究	吾妻重二	A5 本体一六一〇円
中唐詩壇の研究	赤井益久	A5 本体一五九〇円

六朝文学への思索	斯波六郎	A5 本体一万三千円
説文以前小学書の研究	福田哲之	A5 本体八〇〇円
文心雕龍の研究	門脇廣文	A5 本体九四八円

杜詩とともに	黒川 洋一	四六三八〇頁 本体二五〇〇円
論語私感	内田 智雄	四六二七〇頁 本体三二〇〇円
魯迅のなかの古典	林田 愼之助	四六三〇〇頁 本体三二〇〇円
中国文学の底に流れるもの	林田 愼之助	四六三三〇頁 本体三〇〇〇円
中国文学 その心の風景	林田 愼之助	四六三八〇頁 本体三〇〇〇円
中国読書人の政治と文学	林田 愼之助博士古稀 記念論集編集委員会	A5 六八〇頁 本体一万四千円
中国人の美意識 詩・ことば・演劇	岩 城 秀夫	四六三九〇頁 本体三五〇〇円
中唐文学の視角	松本 康三 編	A5 四八〇頁 本体八三〇〇円
中国の文学史観	川合康三 編	A5 四七〇頁 本体八五〇〇円

創文社中国学叢書（全28巻）

責任編集 戸川芳郎・林田慎之助

〔思想〕

*先秦の社会と思想

漢代の思想

六朝の思想

*宋学の形成と展開

*「清朝考証学」とその時代

中国の近代思想

中国の学術思想

*中国の歴史思想

*中国の科学思想

*中国の道教

中国の仏教

*中国人の宗教意識

中国の制度

中国思想と日本

高木 智見

澤田多喜男

蜂屋 邦夫

小島 毅

木下 鉄矢

佐藤 慎一

戸川 芳郎

稲葉 一郎

川原 秀城

小林 正美

丘山 新

吉川 忠夫

磯波 護

渡辺 浩

〔芸術〕

先秦の文学

六朝の文学

*唐宋の文学

明清の文学

*魯迅「故郷」の読書史

中国の文章美学

*中国の自伝文学

語り物の文学

*明清の戯曲

中国の言語と文化

中国の書と文化

中国の絵画

*中国音楽と芸能

中国文学と日本

牧角 悦子

林田慎之助

松本 肇

阿部 泰記

藤井 省三

興膳 宏

川合 康三

小南 一郎

田仲 一成

尾崎雄二郎

杉村 邦彦

曾布川 寛

吉川 良和

村上 哲見

*は既刊

目次

總序	三
----	---

第一部 文章世界の構造

第一章 劉勰の世界観とその文章論への展開	一五
----------------------	----

はじめに	一五
------	----

一 「易の論理」に依據していること	二〇
-------------------	----

二 王弼・韓康伯の「易」に依據していること	二六
-----------------------	----

三 王弼・韓康伯の「易の論理」	三九
-----------------	----

むすびにかえて	四七
---------	----

第二章 劉勰の根本的思考様式	五五
----------------	----

はじめに	五五
------	----

一 世界観と緯書認識	五九
------------	----

二 根源志向と全體志向	七
三 文體論と「本質」↓「現象」の論理	八
むすびにかえて	九

第三章 文學原論の成立	九
-------------	---

はじめに	九
------	---

一 人間觀・文章觀	九
-----------	---

二 聖人認識・經書認識	一五
-------------	----

むすびにかえて	二二
---------	----

第二部 文章世界の構造から文章の創造へ

第一章 「辨騷」篇の構成	二五
--------------	----

はじめに	二五
------	----

一 分段の仕方	二六
---------	----

二 構成	二六
------	----

むすびにかえて	二五
---------	----

第二章 「辨騷」 Ⅱ 文體論」 説	一五四
-------------------	-----

はじめに	一五四
------	-----

一 「辨騷」 Ⅱ 文體論」 説	一六〇
-----------------	-----

二 「辨騷」 Ⅱ 文體論」 説の検討	一六六
--------------------	-----

むすびにかえて	二〇四
---------	-----

第三章 劉勰の屈原・楚辭認識	二〇九
----------------	-----

はじめに	二〇九
------	-----

一 聖人・經書との連續性	二〇九
--------------	-----

二 聖人・經書との斷絶性	二三〇
--------------	-----

三 後世の文人・作品との連續性	二四七
-----------------	-----

むすびにかえて	二五三
---------	-----

第四章 「文之樞紐」の論理構造における「辨騷」篇の位置	二五六
-----------------------------	-----

はじめに	二五六
------	-----

一 「辨」の内容	二六〇
----------	-----

二 「變」の分析	二六四
----------	-----

三 「構造の場」と「創造の場」	二八〇
-----------------	-----

むすびにかえて	二六六
---------	-----

第三部 文章創造の場における問題

第一章 「理」について	二九一
-------------	-----

はじめに	二九一
------	-----

一 「理」の分類	二九七
----------	-----

二 世界観における「理」	二九九
--------------	-----

三 文章観における「理」	三〇九
--------------	-----

むすびにかえて	三二三
---------	-----

第二章 「術」の概念と「總術」篇の「文筆論」	三三九
------------------------	-----

はじめに	三三九
------	-----

一 「術」という語について	三三一
---------------	-----

二 「道」と「術」	三四四
-----------	-----

三 「心」と「術」	三三八
-----------	-----

四 「文筆論」と「術」	三四七
-------------	-----

むすびにかえて	三五五
---------	-----

結語	三九
----	----

附録 江戸時代以前の日本における『文心雕龍』受容の歴史

はじめに	三八
------	----

第一章 奈良・平安時代（七一〇～一一九一）	三七〇
-----------------------	-----

一 『日本國見在書目錄』	三七一
--------------	-----

二 『懷風藻』	三七三
---------	-----

三 『文鏡秘府論』	三七五
-----------	-----

四 『古今和歌集』眞名序	三七九
--------------	-----

第二章 鎌倉・室町時代（一二九二～一五七三）	三九三
------------------------	-----

一 書寫本『五行大義』の紙背の引用	三九五
-------------------	-----

第三章 安土・桃山・江戸時代（一五七四～一八六七）	三九六
---------------------------	-----

一 藤原惺窩『文章達徳綱領』	三九六
----------------	-----

二 日本最初の『文心雕龍』の版本	四〇一
------------------	-----